

【Human Dimensions】（人間事象）とは

近年サル、シカ、イノシシ、そしてクマなどによる農作物や林業への被害等いわゆる獣害問題が全国で増えている。また、アライグマやブラックバスなどの外来生物の増加とそれに伴う在来生物の減少、そしてそういった外来種による農作物や漁業への被害なども大きな問題となっている。このような野生動物問題を解決するためには、動物そのものを対象とする生物学・生態学的アプローチとともに、関連する法制度、政策、そして地域住民の意識などを含めた社会科学的アプローチが必要があり、後者を扱っている学問分野が「野生動物保護管理における人間事象 (Human Dimensions)」である。

Human Dimensions の必要性

人間事象の学問的意義は、1970年代より米国では強く認識されるようになり、野生動物保護管理をより効果的かつ円滑に行うために必要な社会的側面（地域住民の野生動物に対する意識や政策の選好性など）に関する研究が、数多く行われてきた。一方日本では、これまでは野生動物に関する調査研究は生物学・生態学に焦点を当てたものが多く、人間事象に関する研究はあまり行われてこなかった。獣医学、生態学等、動物に関わるデータを集めることで研究が進んできたが、それだけではそれぞれの地域の社会的状況に沿った保護管理政策を提案・実行することは、また住民の要望・実情を反映した鳥獣被害対策の取り組みを実施することは困難である。昨今問題になっている野生動物と人との軋轢を解消するためには、個々の住民側がどのように考え、行動するか、地域社会がどのような仕組みを作るか、人間社会のあり方に関わる議論が必要とされるからである。

実際、同じ地域でも農家、観光業に携わる住民、鳥獣被害対策に携わる行政担当者など、職業やその他の要因によって野生動物への対処をめぐる価値観や利害関係は異なり（図1、図2、図3）、こうした多様な価値観を超えて効果的な野生動物の保護管理を設計するためには、社会科学的アプローチが必要不可欠である。

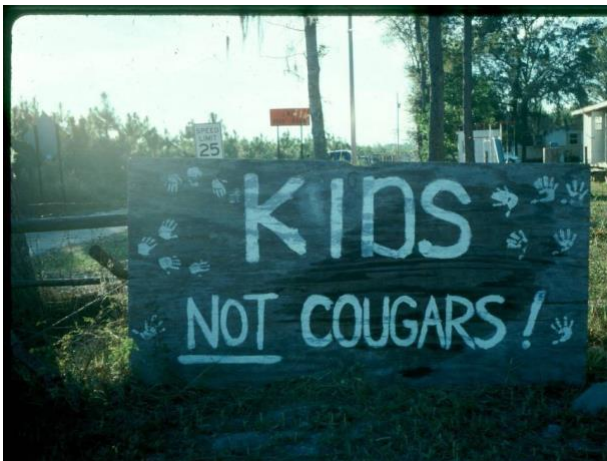


図1. 米国フロリダ州では、絶滅が心配されているフロリダパンサー (Puma concolor) [ピューマの亜種]の再導入計画が検討された際、再導入予定地の近くに住む地域住民から反対の声が上がった。野生動物保護管理を実行する際、特に個体数管理、外来種根絶、また再導入などにおいて、市民のサポート・協力を得ることはプロジェ

クトを成功に導くために重要であり、そのためにも人々の意識や政策の選好性を理解することが必要不可欠である（撮影：S. Jacobson）。

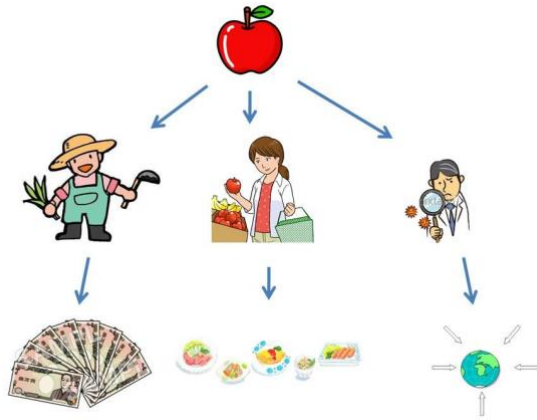


図2. リンゴは、ある農家にとっては重要な収入源であり、ある主婦にとっては夕食の材料であり、そしてある研究者はリンゴが落下するのを見て重力の存在に気付いた。同じ対象物に対しても人々の見方は実に多様である。

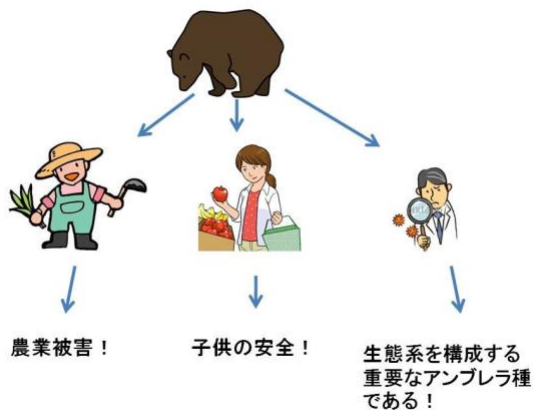


図3. 同様にクマは、農家にとっては農業被害を出す厄病神であるかもしれないし、主婦にとっては自分の子供が通学中に襲われるかもしれないと心配の種であるかもしれないが、一方研究者にとっては豊かな生態系を象徴する貴重な野生動物種であるのかもしれない。一部の人（研究者など）の意見のみを基に立案された政策・対策は、地域社会の実情からはかけ離れたものになってしまう可能性もあり、そのような施策は地域住民の理解・支持を得ることが難しくなってしまう。一般市民・利害関係者による多様な意見を反映させた野生動物保護管理の実現こそが人間事象の目標である。

Human Dimensions の目指すもの

人間事象に関する数少ない教科書の一つである書籍 Human Dimensions of Wildlife Management in North America では、「Human Dimensions とは、人々の野生動物に対する価値観、人々の野生動物管理に対する意向、人々が野生動物管理の決定にどう影響を与えるのか、そして逆に与えられるのか、を理解するための学問分野である…(中略)…Human

Dimensions は野生動物の経済的・社会的価値、個人や社会の行動、保護管理の意思決定への一般市民の参加、コミュニケーションなどを含めたアイデアと実践の広い集合体である」(Decker et al. 2001) と定義されている。人間事象の調査には心理学(社会、認識、行動等)、社会学、経済学、そして政治学など多様な手法が用いられる。

以上、要約すると、野生動物保護管理を実践する際の生物学的アプローチに対する社会科学的アプローチを行う実学が人間事象であり、一般市民や利害関係者の意見やニーズを反映させた野生動物管理を実現するために必要な知識の集積と理論の体系化が人間事象の目標である。我が国におけるこの分野の研究に光を当てることが、私の使命と考える。

引用文献

Decker, D.J., Brown, T.L., and Siemer, W.F. (2001) "Human dimensions of wildlife management in North America." The Wildlife Society, Maryland.

参考文献

桜井良・江成広斗. 2009年. 「ヒューマン・ディメンションとは何か-野生動物管理における社会科学的アプローチの芽生えとその発展について-」 ワイルドライフ・フォーラム、野生動物保護学会 14, 3・4, 16-21.

イラスト使用もと

http://e-pocket.com/illustr/img/illustr/ma_109.jpg

<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/division/nogyo/oshirase/image/nougyouya.jpg>

<http://i-ichiba.com/illustr/02-ishino-32.gif>

<http://image.pixta.jp/graphic/thumb/82/d1ea6cfe4b76af92792368cc30f4700d.jpg>

http://image.blog.livedoor.jp/kisetu_sozai/imgs/e/1/e1491432.jpg

http://www.recipishop.com/list//images/11_1_listall.gif

<http://www.icteachers.co.uk/children/sats/images/gravity.gif>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032500/kuma/image/kuma1.gif>